



参考：環境省ウェブサイト (http://www.env.go.jp/earth) ほか

地球温暖化対策

19

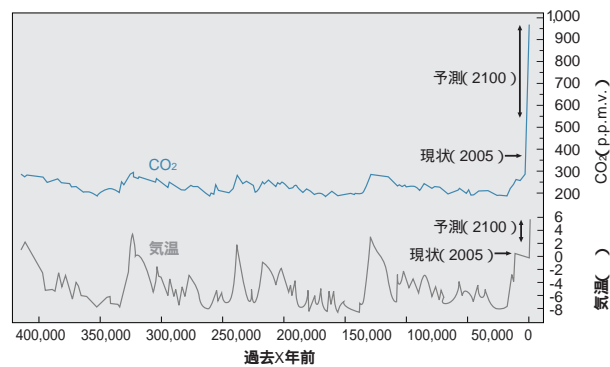
B

増える二酸化炭素の排出

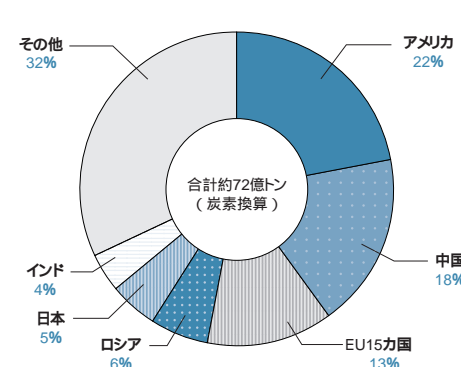
DATA

出典：(財)日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット編「EDMC/エネルギー・経済統計要覧2007年版」、全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (http://www.jccca.org/index.php) ほか

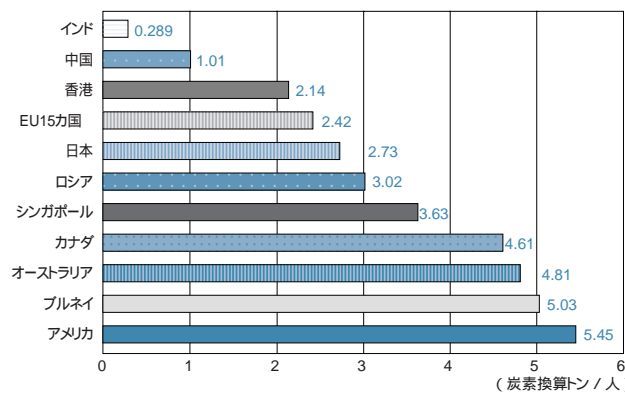
(グラフ1) 42万年前から今後100年のCO₂濃度と気温の傾向



(グラフ2) 世界のCO₂排出量(2004年)

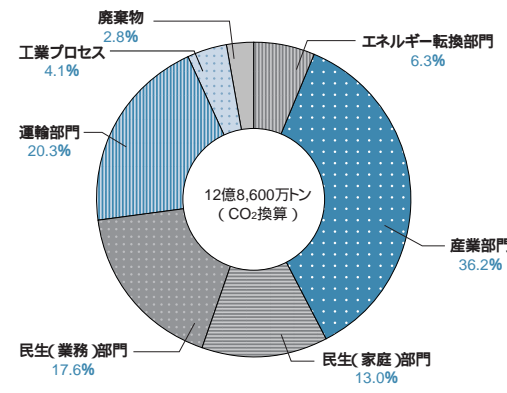


(グラフ3) 主な国・地域の1人当たりCO₂排出量(2004年)



オーストラリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、オランダ、ポルトガル、スペイン、スウェーデン、イギリス

(グラフ4) 日本の部門別CO₂排出量(2004年)

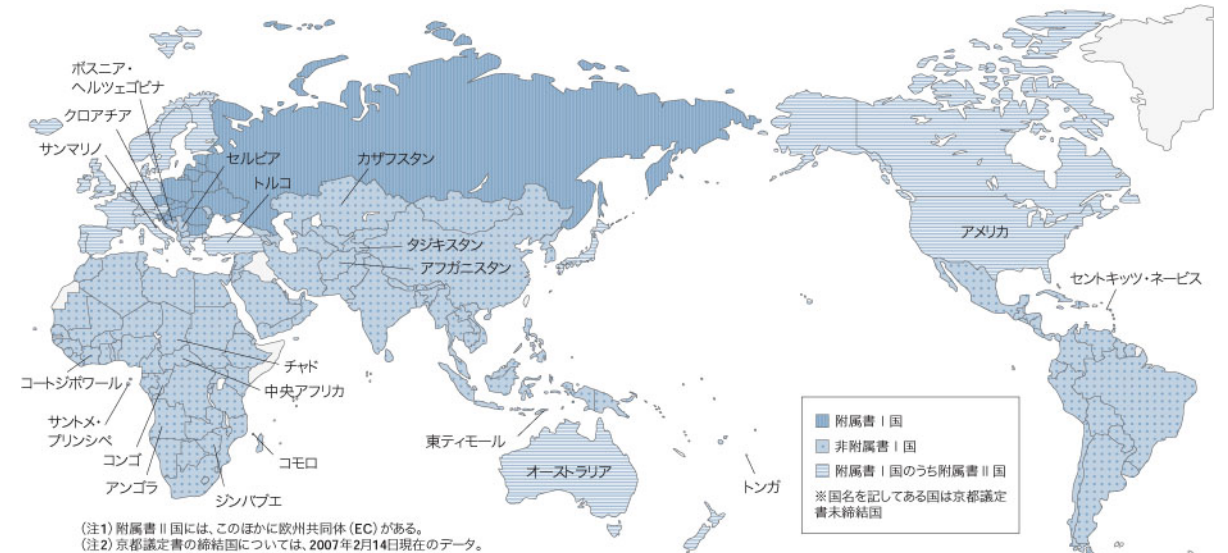


A

気候変動枠組条約の締約国

DATA

出典：気候変動枠組条約 (UNFCCC) ウェブサイト (http://unfccc.int)、UNFCCC 「Kyoto Protocol Reference Manual on Accounting of Emissions and Assigned Amounts」(2007年2月)



(注1) 附属書II国には、このほかに欧州共同体 (EC) がある。
(注2) 京都議定書の締結国については、2007年2月14日現在のデータ。

温室効果ガス排出量の数値目標	国名(*は京都議定書を批准しないことを宣言した国)
-8%	オーストラリア、ベルギー、ブルガリア、チェコ、デンマーク、エストニア、欧州共同体、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルクセンブルク、モナコ、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス
-7%	アメリカ*
-6%	カナダ、ハンガリー、日本、ポーランド
-5%	クロアチア
0	ニュージーランド、ロシア、ウクライナ
+1%	ノルウェー
+8%	オーストラリア*
+10%	アイスランド

今年4月、6%削減の目標達成は不可能と表明し、2020年までに現在の水準より20%削減する目標を発表した。

便利な生活のためのエネルギー使用がCO₂を生む？

温暖化の原因といわれる二酸化炭素 (CO₂) の濃度は、長い間安定を保っていたが、18世紀の産業革命以降、急激に上昇した。石油や石炭などの化石燃料を大量に燃やして使うことで、CO₂の濃度はどんどん高まり、気温も上がっている。このままいくと、2100年の濃度は1,000ppmを超え、気温は1.4~5.8度上がり、海面は9~88センチ上昇すると予測されている。

近年、多くのGHGを排出しているのは、日本を含む先進国と、経済発展著しい中国、ロシア、インドだ。世

界のCO₂の4分の1近くを排出し、1人当たり排出量も世界のアメリカは、京都議定書を批准していない。

日本は04年に排出したCO₂のうち13%が家庭からの排出で、うちマイカー、照明・家電製品、暖房から排出された分が8割近くを占める。日本は京都議定書で08-12年の排出量を90年比で6%削減することが定められているが、10年の排出量は6%増えると予測され、計12%の削減が必要だ。政府は国内の排出量削減で6.5%、森林による吸収で3.9%、CDMなど京都メカニズムで1.6%を削減する計画だが、目標達成への道は険しい。

共通だが差異のある責任

1992年に採択され、94年に発効した気候変動枠組条約 (UNFCCC) の究極の目的は、「温室効果ガス (GHG) の濃度を、気候システムに対して危険な人為的干渉を及ぼさない水準に安定化させること」だ。これまでのGHGの多くが先進国から排出されてきたことや、各国の能力などを考慮して、UNFCCCは「共通だが差異のある責任」という考えのもと、締約国・地域を3つに分類し、先進国には率先して温暖化に対処するよう求めている。

「附属書国」に分類されるのは、92年時点の経済協

力開発機構 (OECD) 加盟国と経済移行国など。これらの国には、京都議定書において法的拘束力のあるGHG排出量の数値目標が定められた。「附属書国」は、「附属書国」のうち経済移行国などを除いた先進国で、途上国に対するGHG削減のための資金援助や技術移転が求められている。

京都議定書は国際的にGHGの排出削減を規定した唯一の枠組みだ。その取り組みは私たち一人一人の行動から始まる。

正式名称は「気候変動に関する国際連合枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change)」